

データベースを活用したコンテストの実施

学生の図書館利用促進と情報活用能力向上の実現

目的・趣旨 |

もっと学生に図書館を活用してほしい、もっとデータベースを利用してほしい。そのためにはどうすればいいのか？

そのように考えて、図書館で企画・立案し、学生の情報探索とレポート作成能力向上のため、2012年に図書館主催イベント『情報の探索と表現』コンテスト開催を決定しました。情報リテラシー教育としての記事執筆コンテストです。図書館契約のデータベースを通じて、学生の動機付けを高め、積極的な取り組みのきっかけを提供するために、テーマを「日本の知らない世界、世界の知らない日本」として、英語をはじめとする外国語の記事が充実している海外通信社提供データベース「AFP World Academic Archive」を指定データベースに選びました。このデータベースの画像を使ってA4一枚の「雑誌記事」を日本語で作り、写真のクレジットや引用・参考文献を作品に記載することで、著作権についても学び、レポートの書き方も身につけてほしいと考えました。

実施内容 |

第1回（2012年）から第4回（2015年秋予定）まで4回にわたって、青山学院大学図書館（本館、万代記念図書館）と青山学院女子短期大学図書館が協同でこのコンテストを企画・運営しています。また、この趣旨に賛同いただいた各社に共催・協賛・後援をいただき、非常に充実したコンテスト運営となっています。第2回（2013年）から「ジャパンナレッジ」、第3回（2014年）からは「朝日新聞『聞蔵II ビジュアル』」「日経BP記事検索サービス」も指定データベースに加わり、各提供元から絶大なご協力をいただいています。

第2回からは英語で「雑誌記事」を作成する英語記事部門や、AFPWAAの記事本文・画像にオリジナルの見出しをつける英語見出し部門、2~4人のグループ応募部門が追加されました。第4回ではフランス語で「雑誌記事」を作成するフランス語部門を追加する予定です。

英語やフランス語の作品を評価するために、英語記事部門・英語見出し部門、フランス語記事部門では、英語やフランス語の教育を担当する教員が審査員を務めます。



2014年作品集の表紙



2014年グランプリ作品掲載ページ

実施成果 |

第1回コンテストには青学生・青短生の51点の力作が寄せられ、とても斬新で力強いメッセージと質の高さで私たちを驚かせてくれました。コンテスト表彰式で学生たちは自分の作品について生き生きと語ってくれました。また、この取り組みは第14回図書館総合展ポスターセッションで優秀賞に選ばれました。

第2回は34件の作品が寄せられました。応募数は前年を下回ったものの、教員との協同によるコンテストの運営はたいへん充実したものとなりました。学生たちの独創的な作品を審査する過程で教員の「とても楽しい」という声を聞いたことや、この取り組みを通して図書館の活動に目を向ける教員が増えたことも成果と言えます。この取り組みは第15回図書館総合展ポスターセッションで最優秀賞を受賞しました。

第3回は青山学院創立140周年記念行事のひとつとして実施し、各データベース提供元から講師を招き、作品制作のための説明会も行い、多くの参加者がありました。コンテスト応募総数は53作品（のべ参加人数75名）にのぼりました。図書館独自の活動に対して教職員からの関心が寄せられました。

データベースを一度体験した学生は「こんなツールがあったのか」「〇〇にも使えそう」と、他のデータベースにも目を向け利用します。「図書館は実は楽しい。使わないともったいないものがたくさんある。」そのことを多くの学生に実感してもらえているようです。



第2回コンテスト表彰式の様子

今後の展開・課題 |

「コンテスト形式」という、学生の誰でも参加できる情報リテラシー教育として、学生を自主的に参加させ、主体的に学ばせるしくみが、学生の参加意欲につながったと考えています。例年、応募動機として大きいのは、パブリックな場である大学（図書館）において作品を「発表」し、審査員によって「評価」を受けられることです。

また、第2回から製作している「作品集」も学生からたいへん好評です。作品集には、受賞作品と、制作者のコメント、審査員の評価を掲載しています。

これらの良い点を生かしつつ、さらに充実したコンテストを目指します。

第4回は、2015年10月1日～28日に作品応募を受け付けます。フランス語部門も新設します。英語科目の課題としてこのコンテストの英語部門が活用される予定です。また、本学外国語ラボラトリーと連携し、外国語部門のさらなる活性を目指したいと考えています。

例年、受賞した学生たちの多くが「最初は別の題材についてデータベースで検索し情報を探っているうちに、この題材を見つけた」と言います。また募集要項に記載された規定どおりに作品制作することでクレジットや引用・参考文献を適切に表記できるようになっています。今後はデータベースを活用できる能力はもちろん、図書館を通して情報を活用する能力や学習・研究に活かす能力を習得・向上させるための支援を図書館としてさらに進めていきます。

参考文献・URL |

- 青山学院図書館
<https://www.agulin.aoyama.ac.jp/>
<https://www.agulin.aoyama.ac.jp/ja/event/602>

連絡先 |

青山学院大学図書館本館
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL: 03-3499-1402